

科目名	J4—1 (文型・文法)		
担当者	春学期：小森 由里 (Komori, Yuri)	秋学期：栗田 奈美 (Kurita, Nami)	
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各1単位

授業の目標

初級で学習した文法事項、文型を復習しながら、それらが正しく、流暢に使えるようになることを目指す。学生が知識として持っている文型や語彙を、日常生活の様々な場面で活用できるレベルに高めることを目指す。

授業の内容

初級レベルでは別々に勉強した文型を複数組み合わせて、より日本語らしい文や、長くて複雑な文を作成できるような練習を行う。短文作成のような練習を通して、正確な日本語を産出する練習を行うとともに、口頭での発話練習も同時に行い、日常会話の中で、実践的に日本語を使う練習を行う。授業で扱う文型数は、初級項目の組み合わせが43、主要文法項目の復習が47である。

授業計画

初級文法、文型の復習を行い、個々の学生が正しい日本語を産出できるようにするとともに、それらを複数組み合わせて、自然な日本語が使えるための練習を行う。毎回、テキストの予習と、短文作成などの宿題を課す。全14回の授業計画は以下の通りである。

1. オリエンテーション、プレレッスン
2. 「ように」を使った表現
3. 「ばかり」を使った表現
4. 「限り」を使った表現(1)
5. 「限り」を使った表現(2)
6. 「意向形」を使った表現
7. 尊敬語

8. 中間テスト

9. 謙譲語

10. 受身・自発

11. 名詞修飾

12. 使役・使役受身

13. Review

14. 期末テスト

成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度40%、課題・宿題20%、中間テスト10%、期末テスト30%

テキスト

オリジナルのプリント教材をテキストとして使用する。テキストは以下のような2部構成になっている。Part1: 初級の文法・文型項目を組み合わせる練習

Part2: 主要文法・文型項目の整理・復習・発展

テキストには、項目ごとに多数の例文が提示されており、その文型を使用した適切で自然な日本語が学習できるようになっている。また、Part2に関しては、英語による文法説明や理解確認問題が用意されている。

参考文献

指定せず。

準備学習・その他(HPなど)

テキストの予習を毎回の宿題として課す。その他、必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

科目名	J4-2 (読解)		
担当者	春学期:金庭 久美子(Kaneniwa, Kumiko) 秋学期:高嶋 幸太 (Takashima, Kota)		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各1単位

授業の目標

初級段階の文法事項を学習した学習者を対象とする。様々な分野の読解教材を数多く読み、徐々に長い文章にも対応できるようにしていく。読解を通して使用語彙、理解語彙を増やすとともに、初級文型や初級語彙が使用語彙にまで高まるような練習を行う。また、文章中に意味の分からない語が出てきた場合に、辞書を引かなくても、前後の文脈から意味を推測して読み進めることができるような練習を行う。

授業の内容

様々な分野の読解教材を軸として、読みのスキルの学習、内容把握などを行う。(文法で触れた文型を扱うことが多いため、文法の授業の履修を勧める。)また、筆者の主張や論点を要約する練習も行う。さらに、ディスカッションを通して、内容に関する理解を深める。毎回、語彙力をつけるために、文章内の新出語彙を使用した短文作成を宿題として課し、次週に語彙クイズを行う。

授業計画

小説、エッセイ、新聞や雑誌の記事などの様々な文章の読解を行う。全14回の授業で扱う文章のジャンルと長さは以下の通りである。

1. 説明文(留学の意義):1200字
2. エッセイ(子どものしつけ): 900字

3. 記事(利き手): 1000字
4. 説明文(同音異義語1):1400字
5. 説明文(同音異義語2):1100字
6. エッセイ(無言の乗客):750字
7. 説明文(自己表現力):1200字
8. 物語(究極の選択):1400字
9. 説明文(映像コミュニケーション):1000字
10. 説明文(2種類の涙):1100字
11. エッセイ(カタツムリ):900字
12. 説明文(共通語と方言):1600字
13. 期末テスト
14. フィードバック

成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度40%、課題・宿題30%、期末テスト30%

テキスト

オリジナルのプリント教材をテキストとして使用する。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

毎回、テキストの予習を宿題として課す。その他、必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

科目名	J4—3 (作文)		
担当者	春学期：長谷川 孝子 (Hasegawa, Takako) 秋学期：長谷川 孝子 (Hasegawa, Takako)		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各1単位

授業の目標

初級で学習した語彙や文型の定着及び応用力の養成を目的とする。具体的には、それらを使って正しい文章(単文だけでなく、複文も含む)が産出できるようになることを目指す。また、400字程度の短い文章が適切な構成で書けるようになることも目標とする。

授業の内容

初級で学習した語彙や文型を複数組み合わせ、長い1文を作成する練習を繰り返す。単に意味が通じるだけでなく、助詞の間違いや語彙レベルの不適切さなどにも注意を向け、自然で洗練された日本語を作る練習を行う。授業で扱う文型数は計31である。

授業計画

単にパターンや構成の導入のみでなく、それらを使った作文を重要視して授業を進める。(文法で触れた文型を扱うことが多いため、文法の授業の履修を勧める。)全14回の授業計画と、授業で扱う主な文型は以下の通りである。

1. プレッスン(初級文法の確認問題)
2. ～とは～ことだ/～ことで/～は～を～させる
3. ～て気づいたことがある/～のは～からだ/～という考え方が～に～をさせる
4. 私は～は～の点から～のグループに分類されると思う/～は～ため、～と～/～を～に役立てる
5. AとBはどちらも～が、AとBとでは～が異なっている/AとBはどちらも～。しかし、AとBは～において対照的である/～は

～。一方、～は～。

6. ～は～の方向に進もうとしている/たとえばAやBといったX/～なら、～でもいい
7. ～せずに～てばかりいると～/もし～とするなら、それは～/～ことこそ、～。
8. ～という点では、AはBとは比べものにならない/～とは言えないまでも/～にとって～は必要不可欠である
9. ～。しかも、～。そのため～/私は～が～のは当然だと思う。/～た上で、～
10. つまり/すなわち/いわば/いわゆる
11. ～よりもむしろ～/いつもは～だが、時には～こともある/～以上、～なければならない
12. Aをはじめ、BやC/～さえ～ば/ことわざ
13. Review
14. 期末テスト

成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度40%、課題・宿題30%、期末テスト30%

テキスト

オリジナルのプリント教材をテキストとして使用する。テキストは以下のような2部構成になっている。
Part1: 初級文型を複数組み合わせた文型、及び初中級レベルの新しい文型の学習
Part2: Part1で学習した文型を複数組み合わせたパラグラフライティング

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

科目名	J4—4（聴解・会話）		
担当者	春学期：御子神 佳奈(Mikogami, Kana), 栗田 奈美(Kurita, Nami) 秋学期：猪口 綾奈(Inoguchi, Ayana)		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各1単位

授業の目標

初級修了レベルの学習者を対象とし、日常生活における様々な場面での聴解と会話能力の育成を目指す。相手の話すことを正確に把握し、それに対して自分の意見等を正しい日本語できちんと発表できるようになることを目標とする。

授業の内容

授業はスピーチ、会話、聴解の3部構成になっている。スピーチでは、自分の意見を整理して、構成を意識しながらわかりやすく伝える練習を行う。会話では、初級で学習した表現の復習や会話特有の表現（縮約形、助詞の省略、あいづちなど）の学習を行い、それらを使用する会話の練習を行う。スピーチと会話とともに、流暢さだけでなく発話の正確性を重視する。聴解では、CDなどの教材をもとに、まとまった内容を聞いて大意把握や情報取りなどが適切にできるように練習を行う。さらに、聴解の内容についてのディスカッションを行う。

授業計画

日常生活、大学生活の中の様々な場面を取り上げ、ロールプレイなどの方法を取り入れながら、授業を行う。（文法で触れた文型を扱うことが多いため、文法の授業の履修を勧める。）

全14回の授業で扱う会話の内容は以下の通りである。

- 自己紹介
- 縮約形①

- 縮約形②
- 助詞の省略
- レストラン/喫茶店での会話①
- レストラン/喫茶店での会話②
- インタビュー
- 授業後の会話①
- 授業後の会話②
- 勘違い①
- 勘違い②
- 人についての説明①
- 人についての説明②
- 期末テスト

成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度40%、課題・宿題30%、期末テスト30%

テキスト

- 『新装版 なめらか日本語会話』(アルク)
『ロールプレイで学ぶ 中級から上級への日本語会話』(アルク)
『新・毎日の聞きとり50日』(上)(下)(凡人社)
等を抜粋して使用する。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

科目名	J5—1 (文型・文法)		
担当者	春学期：長島 明子 (Nagashima, Akiko) 秋学期：長島 明子 (Nagashima, Akiko)		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各1単位

授業の目標

初中級で学習した文法事項、文型を復習しながら、エッセイや会話などで頻りに用いられる中級文型を紹介し、練習する。学生が知識として持っている文型や語彙を増やすだけでなく、それらを日常生活の様々な場面で活用できるレベルに高めることを目指す。

授業の内容

日常会話や書き言葉の中で使われる文型や語彙の学習を行う。単に導入するのではなく、既習項目との違いを整理しながら新しい文型を実際の会話や書き言葉の中で正しく使う練習を重視する。

授業で扱う文型数は、助詞相当語が21、その他の文型・表現が99である。

授業計画

初級文法、文型の復習を行い、個々の学生が正しい日本語を産出できるようにするとともに、新しい文法事項、文型(会話の文型、読みの文型)の導入や練習を行う。毎回、テキストの予習と、短文作成などの宿題を課す。全14回の授業計画は以下の通りである。

1. オリエンテーション・プレレッスン
2. こそあど
3. と/ば/たら/なら
4. 「こと」を使った表現(1)
5. 「こと」を使った表現(2)
6. 「もの」を使った表現(1)
7. 「もの」を使った表現(2)
8. 中間テスト(フィードバックを含む)

9. 時間の表現

10. 「わけ」を使った表現

11. 日常会話で使用する副詞

12. 「量が多い」ことをあらわす表現、「よく」の使い方

13. Review

14. 期末テスト

成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度40%、課題・宿題20%、中間テスト10%、期末テスト30%

テキスト

オリジナルのプリント教材をテキストとして使用する。テキストは2部構成になっている。

Part1: 助詞相当語の導入・練習

Part2: 主要項目の導入・練習・発展

Part1では、毎回2~4個の助詞相当語を扱う。

Part2では、初級の復習に加えて、それを発展させた文型や表現を学習する。

なお、テキストには項目ごとに多数の例文が提示されており、その文型を利用した適切で自然な日本語が学習できるようになっている。

また、英語による文法説明や理解確認問題も適宜含まれている。

参考文献

指定せず。

準備学習・その他(HPなど)

テキストの予習を毎回の宿題として課す。その他、必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

科目名	J5—2 (読解)		
担当者	春学期：平山 紫帆 (Hirayama, Shiho)	秋学期：小森 由里 (Komori, Yuri)	
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各1単位

授業の目標

初中級段階の文法事項を完璧に学習した学習者を対象とする。様々な分野の読解教材を数多く読み、長い文章にも対応できるようにする。読解を通して使用語彙、理解語彙を増やす。また、読むスピードを速くする練習や、意味が分からない語彙について辞書を使わずに文脈で意味を推測する練習も行う。

授業の内容

物語や説明文、エッセイなど様々な分野の読解教材を読み、読みのスキルの学習、内容把握などを行う。また、決められた時間内に早く読む練習や音読も行う。語彙を増やすための語彙リストの作成や、指定された語彙を用いたの短文作成なども行う。

授業計画

1. 授業概要、読み方について考える、必要な情報を拾って早く読む練習
2. 必要な情報を拾って早く読む (パンフレット・情報誌を読む)
3. 必要な情報を拾って早く読む、百科事典・辞書の使い方学ぶ、大意を取る練習 (新聞を読む)
4. 必要な情報を拾って早く読む、大意を取る (国語辞典・パンフレットを読む)
5. 必要な情報を拾って早く読む、大意を取る (新聞を読む)
6. 意味を考えながらじっくり読む、表現を

増やす (物語を読む: 1,000字)

7. 接続表現に注意して読む、表現を増やす (物語を読む: 1,800字)
8. 指示表現に注意して読む、表現を増やす (説明文を読む: 1,800字)
- 9.10. 細かいところまで注意して読む (エッセイを読む: 600字, 800字), 要約, 音読の練習
11. 文章の型を考えて読む (エッセイを読む: 700字)
12. 細かいところまで注意して読む、図表を読む (調査報告文を読む)
13. 意味を考えながらじっくり読む (物語を読む: 3,000字)
14. 期末テスト

成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度 30%, 課題・宿題 40%, 期末テスト 30%

テキスト

プリント教材。日本語学習者向けの教材と生教材を併用する。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他 (HPなど)

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

科目名	J5—3（作文）		
担当者	春学期:金庭 久美子(Kaneniwa, Kumiko) 秋学期:金庭 久美子(Kaneniwa, Kumiko)		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各1単位

授業の目標

初中級で学習した語彙の定着, およびさらに語彙数を増やすこと, および初中級で学習した文型を使って, レポートや作文を書く力をつけることを目的とする。

授業の内容

教室ではレポートや作文の構成, 要約について学習し, 毎回800字から1000字程度の作文を書き, それについてのフィードバックを行う。

授業計画

単にパターンや構成の導入のみでなく, それらを使った作文を重要視して授業を進める。授業内の作文課題に加え, 毎週作文課題を宿題として課す。

具体的な授業計画は以下のとおりである。

15. オリエンテーション, プレレッスン
16. L1: 作文の基本ルール
17. L2: 作文の基本ルール
18. L3: 構成の立て方
19. L4: 構成メモの作り方
20. L5: 構成の立て方 総合練習
21. フィードバック
22. L6: 要約
23. L7: 意見文
24. L8: 提案・解決策の提示
25. L9: 意見に賛成/反対する
26. L10: 賛成・反対の両面から論じる
27. フィードバック

28. 期末テスト

成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度40%, 課題・宿題30%, 期末テスト30%

テキスト

オリジナル教材。作文のルールや書き言葉のルール, 構成, 要約のしかたについて学び, さまざまなテーマで作文を書く。課ごとに授業内で配布する。各課のテーマは以下の通りである。

プレ. 将来の計画, このクラスで学びたいこと

1. 私の友達
2. 外国人労働者受け入れ
3. ことわざ, 敬語
4. 共働き
5. あなたにとって大切なもの
6. 男女共同参画社会
7. 歴史上の出来事を変えられるなら
8. 問題, 不満に対する解決策
9. 英語学習ブーム①
10. 英語学習ブーム②

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については, 毎回の授業で指示する。

科目名	J5—4 (聴解・会話)		
担当者	春学期：高嶋 幸太 (Takashima, Kota), 金庭 久美子 (Kaneniwa, Kumiko) 秋学期：山内 薫 (Yamauchi, Kaori), 平山 紫帆 (Hirayama, Shiho)		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各1単位

授業の目標

初中級修了レベルの学習者を対象とし、日常生活における様々な場面での聴解能力と会話能力の育成を目指す。相手の話すことを正確に把握し、それに対して自分の意見等をきちんと話せるようになることを目標とする。また、人前で日本語を使って発表ができるようになることも目標とする。学期終了後には、語彙数6000、アカデミック場面を含め、日常での一般的なことについてインプット、アウトプットが出来るようになることを目標とする。

授業の内容

聴解と会話・ダイアログの練習では、テープ教材をもとに、「伝言」「勧誘」「許可」の3つの機能を取り上げ、日常での「カジュアルな場面」と「改まった場面」での言い方の違いを勉強する。その際、内容の聞き取り、ターゲット表現の発話練習を行い、ロールプレイの発表へとつなげる。
会話・モノログの練習では、学期中に2回グラフや表の説明を発表する。また、さらにそれについての意見発表などを行う。どちらも改まった場面では、敬語を使う練習をする。

授業計画

日常生活、大学生活の中の様々な場面を取り上げ、ロールプレイやプレゼンテーションなどの方法を取り入れながら、授業を行う。以下14回の授業計画を示す。

1. オリエンテーション(スピーチ順番決めなど)
2. 第一回目スピーチ準備(ブレインストーミング、テーマ決定、アウトライン作成)、「伝言」会話練習
3. 第一回目スピーチ(一回に2~3人がスピーチを担当する)、「伝言」練習

4. 第一回目スピーチ、「伝言」練習
5. 第一回目スピーチ、「勧誘」練習
6. 第一回目スピーチ、「勧誘」練習
7. スピーチフィードバック、聴解練習
8. 第二回目スピーチ準備(ブレインストーミング、テーマ決定、アウトライン作成)、「勧誘」会話練習
9. 第二回目スピーチ、「勧誘」練習
10. 第二回目スピーチ、「許可」練習
11. 第二回目スピーチ、「許可」練習
12. 第二回目スピーチ、「許可」練習
13. スピーチフィードバック、聴解練習、振り返り
14. 期末テスト(聴解、会話)

成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度30%、課題・宿題40%、期末テスト30%

テキスト

聴解と会話・ダイアログは、『中上級日本語音声教材・毎日の聞き取り plus40 上』(凡人社)、『聞いて覚える話し方 日本語生中継・中上級編』(くろしお出版)を適宜使う。会話・モノログは、特に教材は使わない。適宜プリントを配布する。

参考文献

指定せず。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。スピーチの準備として、グラフや表を自分で探すことや、原稿を準備することは、教室内では行わないため、宿題となる。また、スピーチの発音練習は教室内でも行うが、練習が不足していると思う場合は、各自の判断で、教室外で日本人と一緒にスピーチの練習をすることが望ましい。

科目名	J6—1 (文型・文法)		
担当者	春学期：神元 愛美子 (Kamimoto, Emiko)	秋学期：小森 由里 (Komori, Yuri)	
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各1単位

授業の目標

日常会話や小説などで用いられるやや高度な文法、文型の理解を目的とする。

授業の内容

ビデオ、新聞記事、小説などの中で使われる文型や語彙の学習を行う。単に導入するのではなく、既習項目との違いを整理しながら、新しい文型の意味・用法を学習する。また、文法や文型を理解するだけでなく、書き言葉の中や日常生活の会話の中で、実際に使う練習を重視する。日本語の産出においては、流暢さだけでなく、正確な日本語をアウトプットできるように練習を重ねる。

授業で扱う文型数は、合計 123 文型である。

授業計画

新しい文法事項、文型(会話の文型、読みの文型)の導入や練習を行う。毎回、テキストの予習と、短文作成などの宿題を課す。全14回の授業計画は以下の通りである。

1. オリエンテーション・プレッスン
2. 理由・目的の表現
3. 感情・心情・評価の文型
4. 不快・非難・軽蔑・不満の文型
5. 話者の判断・及び理性的評価を表す文型
6. 話者の推察を表す文型
7. 人や物の状態・性質を表す文型(1)
8. 中間テスト・フィードバック
9. 人や物の状態・性質を表す文型(2)

10. 義務・当然を表す文型

11. その他の文型(1)

12. その他の文型(2)

13. Review

14. 期末テスト

成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度 40%、課題・宿題 20%、中間テスト 10%、期末テスト 30%

テキスト

オリジナルのプリント教材をテキストとして使用する。テキストは主に以下のような構成になっている。

- 1) 既習の文法・文型項目の復習問題
- 2) 既習の文法・文型項目の整理・発展
- 3) 理解確認問題
- 4) 新しい文法・文型項目の導入・説明
- 5) 理解確認問題
- 6) 復習問題

テキストには項目ごとに多数の例文が提示されており、その文型を使用した適切で自然な日本語が学習できるようになっている。また、日本語による文法説明や理解確認問題も豊富に用意されている。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

テキストの予習を毎回の宿題として課す。その他、必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

科目名	J6—2 (読解)		
担当者	春学期：藤田 恵 (Fujita, Megumi)	秋学期：金庭 久美子 (Kaneniwa, Kumiko)	
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各1単位

授業の目標

様々な分野の文章を数多く読み、内容を理解することができるようになることを目標とする。

授業の内容

読解を通して、語彙を増やすとともに、説明文や小説、エッセイなど様々なスタイルの文章に触れて、読みのスキルを伸ばす。また、決められた時間内に早く読む練習や音読も行う。語彙を増やすための語彙リストの作成や、指定された語彙を用いての短文作成なども行う。さらに、文章の要約も授業で扱い、宿題として毎回課す。

授業計画

1. 授業概要、読み方について考える、必要な情報を拾って早く読む練習(パンフレット・雑誌を読む)
2. 大意を取る練習(新聞を読む)
3. 必要な情報を拾って早く読む、文章の大意を取る(新聞を読む)
4. 主題・大意・要点をつかむ(エッセイ・新聞を読む)
5. 文章を読んで要約する(エッセイ・説明文を読む:400字, 600字, 800字の文章を100字に要約する)
6. 接続表現に注意して読む(説明文を読む:500字, 1,000字)
7. 文章の構成に注意して読む(説明文を

読む:700字, 800字)

8. 指示表現に注意して読む(説明文を読む)
9. 予測して読む(エッセイ・説明文を読む)
10. 対立する内容を読む(エッセイを読む:800字, 1,200字)
11. 調査結果・図表を読む(調査報告を読む:700字)
12. 新聞記事を読む(新聞記事を読む)
13. 意味を考えながらじっくり読む(小説を読む:7,000字)
14. 期末テスト

成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度30%、課題・宿題40%、期末テスト30%

テキスト

プリント教材。日本語学習者向けの教材と生教材を併用する。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

科目名	J6—3 (作文)		
担当者	春学期：沢野 美由紀 (Sawano, Miyuki) 秋学期：沢野 美由紀 (Sawano, Miyuki)		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各1単位

授業の目標

これまでに学習した文型を使って、レポートや作文を書く力をつけることを目的とする。

授業の内容

レポートや作文の構成について学習し、毎回800から1200字程度の作文を書き、それについてのフィードバックを行う。きちんとした構成で文章が組み立てられているかを重視するため、最初は与えられた構成パターンに従いながらレポートを作成する練習を繰り返す。

授業計画

毎回、テーマごとに例となる文章を提示し、その文章の構成パターンに沿った文章を作成する練習を行う。さらに、自分の意見をまとめるだけでなく、長文を読み、その内容に基づいて自分の意見をまとめる練習も行う。また、論拠となる資料やデータを読み取り、要約し、レポート中に正しく提示する方法も練習する。具体的な授業計画は以下のとおりである。

29. オリエンテーション、プレレッスン
30. L1: グラフや表を読み取る(基礎)①
31. L2: グラフや表を読み取る(基礎)②
32. L3: グラフや表を読み取る(構成)①
33. L4: グラフや表を読み取る(構成)②
34. L5: グラフや表を読み取る まとめ
35. フィードバック
36. L6: 引用の仕方①
37. L7: 引用の仕方②
38. L8: 引用の仕方 まとめ
39. L9: 総合練習①

40. L10: 総合練習②
41. フィードバック
42. 期末テスト

成績評価方法・基準

出席 およびクラスへの参加度 40%、課題・宿題 30%、期末テスト 30%

テキスト

オリジナル教材。課ごとに授業内で配布する。各課のテーマは以下の通りである。

- プレ. 子供の勉強意欲
11. 女性の晩婚化, 親子関係等
 12. 日本の若者の勉強に対する考え方
 13. 世界の高校生の意識調査
 14. 雇用問題
 15. アジアバロメーター調査
 16. 複数のトピックについての引用
 17. メディア・リテラシー
 18. 無痛文明
 19. 裁判員制度
 20. 環境問題

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

科目名	J6—4 (聴解・会話)		
担当者	春学期：山内 薫 (Yamauchi, Kaori), 金庭 久美子 (Kaneniwa, Kumiko) 秋学期：山内 薫 (Yamauchi, Kaori), 栗田 奈美 (Kurita, Nami)		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各1単位

授業の目標

基礎的な文法, 表現, 語彙を理解してはいるが, 実生活レベルでの聴解能力や会話能力に自信がない学習者を対象として, 実質的な運用能力の育成を目指す。

聴解では, 時事問題をテーマに, 正確に把握し, それに対して自分の意見等を場面に相応しい日本語で話せるようになることを目標とする。

会話では, 相手や場面に相応しい日本語が流暢に話せるようになることを目指す。さらに, 人前で日本語を使って発表することに慣れることも目標とする。学期終了後には, 語彙数10000の習得を目指す。

授業の内容

聴解では, 日本語学習者向けに編集されていない教材を用い, 生の日本語に触れることによって実践的な力を身につけていく。授業では, テレビやラジオのニュース等の内容を把握する練習を行う。

会話では, 聴解で聞いたニュースについてディスカッションをする。自分の意見を場面や相手に相応しい日本語で話す練習をする。また, 会話・モノログの練習として, ニュースで扱ったトピックに関連したテーマを選び, スピーチを行う。さらに, 会話・ダイアログでは, 「好印象を与える自己紹介」「体験を話す」「言い換えて説明をする」の3つのテーマを取り上げ, 日本人がよく使う会話の表現が使えるようになる練習と, まとまった内容を相手に分かりやすく説明する練習を行う。

授業計画

生の教材を利用した聴解練習と, スピーチ, ロールプレイなどの発話練習を行う。細かい語彙や文型を説明する授業ではなく, 内容把握した上で自らが情報を発信することに重点をおいているため, 学習者一人一人の積極的な授業参加が強く求められる。以下,

14回の授業計画を示す。

1. オリエンテーション (スピーチ 順番決めなど)
2. 聴解ニュース 1, スピーチ (一回に2〜3人がスピーチを担当する), 「自己紹介」
3. 聴解ニュース 2, スピーチ, 「自己紹介」
4. 聴解ニュース 3, スピーチ, 「自己紹介」
5. 聴解ニュース 4, スピーチ, 「自己紹介」
6. 聴解ニュース 5, スピーチ, 「体験談」
7. 聴解ニュース 6, スピーチ, 「体験談」
8. 聴解ニュース 7, スピーチ, 「体験談」
9. 聴解ニュース 8, スピーチ, 「体験談」
10. 聴解ニュース 9, スピーチ, 「言い換え」
11. 聴解ニュース 10, スピーチ, 「言い換え」
12. 聴解ニュース 11, スピーチ, 「言い換え」
13. 聴解ニュース 12, スピーチ, 「言い換え」
14. 期末テスト (聴解, 会話)

成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度30%, 課題・宿題40%, 期末テスト30%

テキスト

聴解には、『ニュースで学ぶ日本語一聞き取り教材(中級用)(パート2)』(凡人社)を適宜使う。会話・ダイアログには『日本語上級話者への道—きちんと伝える技術と表現』(スリーエーネットワーク)を適宜使う。会話・モノログには, 特に教材は使わない。適宜プリントを配布する。

参考文献

指定せず。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については, 毎回の授業で指示する。スピーチの準備として, 原稿を準備することは, 教室内では行わないため, 宿題となる。また, スピーチの発音練習は教室内でも行うが, 練習が不足していると思う場合は, 教室外でも練習をすることが望ましい。

科目名	J7—1 (文型・文法)		
担当者	春学期：小森 由里 (Komori, Yuri)	秋学期：小森 由里 (Komori, Yuri)	
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各1単位

授業の目標

文学作品や専門的な雑誌記事，さらには公式なスピーチなどで用いられる高度な文型や表現を理解し，自分の会話や作文で流暢に使えるようになることを目指す。

授業の内容

文学作品や雑誌記事，演説などから文型や表現を抽出し，それらのパターンや用法，ニュアンスの似ている文型の違いを理解するため，多くの例文に触れる。また，自分でそれらの文型や表現を使えるようになるまで，短文練習を繰り返し行う。授業で扱う文型数は約 60，語彙・表現は約 50 である。

授業計画

毎回，10程度の新しい文型や表現を導入し，それについての練習を行う。毎回，テキストの予習と，新しく導入された文型を使った短文作成を宿題として課す。全14回の授業計画は以下の通りである。

1. オリエンテーション、プレ・レッスン
2. 「ながら／まま／つつ」を使った表現
3. 「意向形」を使った表現
4. 「ところ」を使った表現
5. 「まで」を使った表現
6. 「時」を表す文型①
7. 「時」を表す文型②
8. 中間テスト
9. 「時」を表す文型③
10. 「時」を表す文型④

11. 複合動詞
12. 副詞の呼応
13. Review
14. 期末テスト

成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度40%，課題・宿題20%，中間テスト10%，期末テスト30%

テキスト

オリジナルのプリント教材をテキストとして使用する。テキストは主に以下のような2部構成になっている。

Part1:新しい文型

- 1) 既習の文法・文型項目の復習
- 2) 新しい文法・文型項目の導入・説明
- 3) 理解確認問題

Part2:覚えたほうが良い表現

- 1) 新しい語彙や表現の導入・説明
- 2) 理解確認問題

テキストには項目ごとに多数の例文が提示されており，その文型を使用した適切で自然な日本語が学習できるようになっている。また，日本語による文法説明や理解確認問題も豊富に用意されている。

参考文献

指定せず。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については，毎回の授業で指示する。

科目名	J7—2 (読解)		
担当者	春学期：小浦方 理恵 (Kourakata, Rie) 秋学期：保坂 明香 (Hosaka, Asuka)		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各1単位

授業の目標

文学作品や専門的な雑誌記事など高度な日本語で書かれた長文を読み、その内容を理解し、自分の言葉でその内容を説明できるようになることを目指す。

授業の内容

長文の読解、内容把握、語彙の理解確認などを行う。内容については、ぼんやりとわかる程度ではなく、読み取った内容について、他の人に伝えることができるくらい深く理解するための練習を行う。また、語彙や漢字の知識を増やすとともに、日常会話ではあまり使われないスタイルの文章に触れることで、読みのスキルを伸ばす。さらに、読むスピードを速くする練習も行う。また、文章の要約も授業で扱い、宿題として毎回課す。

授業計画

1. 授業概要、新聞を読む、新聞記事の構成(見出し・リード・本文)
2. 新聞を読む(出来事を報じる記事、解説記事、主張や感想を述べる記事)、文章の要約の仕方
3. 新聞を読む(日常生活に関する記事)
4. 新聞を読む(科学に関する記事)
5. 新聞を読む(社会生活に関する記事)
6. 新聞を読む(社会生活に関する記事)

7. 開発についての論説文を読む(1,500字)
8. 国際化についての論説文を読む(1,700字)
9. 日本企業についての論説文を読む(1,800字)
10. 環境問題についての論説文を読む(2,000字)
11. 小説を読む
12. 小説を読む
13. 小説を読む
14. 期末テスト

成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度30%、課題(宿題)提出状況40%、期末テスト30%

テキスト

プリント教材。日本語学習者向けの教材と生教材を併用する。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

科目名	J7-3 (作文)		
担当者	春学期: 沢野 美由紀 (Sawano, Miyuki) 秋学期: 沢野 美由紀 (Sawano, Miyuki)		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各1単位

授業の目標

これまでに学習した語彙や文型を使って、「作文」ではなく、レポートや報告書を書く力をつけることを目的とする。

授業の内容

大学レベルで必要とされる長文作成(レポートや調査報告書)のための練習を行う。具体的には、レポートの構成や機能(例示や引用、反論、など)ごとに、たくさんの例を示しながら、そこで使われる語彙や文型に触れ、最終的には参加者自身が長い文章を作成する。単に自分の意見を書くだけでなく、文章を読み、それを理解したうえで、自分の意見を関連付けてまとめる練習を行う。

授業計画

毎回、決まったテーマに基づいて練習を行う。学期中には、ほぼ毎回、作文の課題、あるいは作文を書くための文章読解の宿題が課される。

具体的な授業計画は以下のとおりである。

43. オリエンテーション, プレレッスン
44. L1-①: 内容理解とテーマの整理
45. L1-②: 構成
46. L2-①: 内容理解とテーマの整理
47. L2-②: 構成
48. L3-①: 内容理解とテーマの整理
49. L3-②: 構成

50. フィードバック
51. L4-①: 内容理解とテーマの整理
52. L4-②: 構成
53. L5-①: 内容理解とテーマの整理
54. L5-②: 構成
55. フィードバック
56. 期末テスト

成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度40%, 課題・宿題30%, 期末テスト30%

テキスト

オリジナル教材。課ごとに授業内で配布する。1つのテーマを①内容理解とテーマの整理, ②構成, という2課で扱う。各課のテーマは以下の通りである。

21. 日本の言語文化
22. 日本サブカルチャーの世界進出
23. メールと言語表現
24. クローン技術
25. 国語力

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

科目名	J7—4 (聴解・会話)		
担当者	春学期：山内 薫 (Yamauchi, Kaori), 栗田 奈美 (Kurita, Nami) 秋学期：御子神 佳奈 (Mikogami, Kana)		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各1単位

授業の目標

中上級終了レベルの学習者を対象とし、アカデミック場面での聴解能力と会話能力の育成と場面に適切な日本語の習得を目指す。生の教材を用い、日常生活だけでなく、講義や講演などやや専門的な内容や社会問題、時事問題についても細部まで正確に把握し、流暢に意見が言えるようになることを目標とする。学期終了後には、語彙数 10000～15000 語の習得を目指す。

授業の内容

数多くの生教材を正確に理解することによって、流暢さとの確さを高める。聴解では、ビデオを視聴しながら語彙、表現を増やすと同時に、細部まで内容を把握することにより、日本社会の問題や日本事情について学んでいく。その後、ディスカッションを通じて、会話の練習へと発展をさせる。その際、くだけた日本語で意見を発表するのではなく、「きちんとした日本語」で、他者と意見交換することについても注意を向けることが求められる。さらに、同じテーマでプレゼンテーションを行い、時事問題や社会問題について大勢の人前で発表する能力を高めていく。

ダイアログの練習では、「初対面の目下の人への話し方」「困った状況を伝えて交渉する」「目上の人に注意を促す」の3つのテーマを取り上げ、相手への配慮を心がけた発話の練習を行う。

授業計画

クラスでは、ビデオ視聴をしたあと、その内容理解をディスカッションや QA を通して行う。モノログの練習は、プレゼンテーションを行う。自らが情報を発信することに重点をおいているため、学習者一人一人の積極的な授業参加

が強く求められる。以下 14 回の授業計画を示す。

1. オリエンテーション
2. DVD (社会問題①), 会話練習「目下」
3. DVD (社会問題①), 会話練習「目下」
4. DVD (社会問題②), 会話練習「目下」
5. プレゼンテーション発表 第1回目
6. DVD (社会問題②), 会話練習「交渉」
7. DVD (社会問題③), 会話練習「交渉」
8. DVD (社会問題③), 会話練習「交渉」
9. プレゼンテーション発表 第2回目
10. DVD (社会問題④), 会話練習「注意」
11. DVD (社会問題④), 会話練習「注意」
12. DVD (社会問題・まとめ), 会話練習「注意」
13. 振り返り, 口頭表現テスト
14. 聴解テスト

成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度 30%, 課題・宿題 40%, 期末テスト 30%

テキスト

会話・ダイアログの練習は、『日本語超絶話者へのかけはしーきちんと伝える技術と表現』(スリーエーネットワーク)を適宜使う。聴解、会話・モノログの練習は、特に教材は使わない。適宜プリントを配布する。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。プレゼンテーションの原稿準備は、教室内では行わないため、宿題となる。また、発音練習は教室内でも行うが、練習が不足していると思う場合は、各自の判断で、教室外で日本人と一緒に練習をすることが望ましい。